

## W T O 農業交渉について

一五〇〇字

もう一つお尋ねいたします。

農業交渉は、平成十二年三月のW T O 農業委員会特別会合から開始されました。各国は、この十二月末までに、交渉に臨むための提案を提出することになっております。現在まで、アメリカやケアンズ諸国は既に幾つかの提案を出しているというふうに聞いております。農産物輸出国は、さらなる関税の大幅削減や補助金の見直しを要求して、農産物貿易に対する支配を強めようとする意図があると聞いておりますし、感じております。しかし、ウルグアイ・ラウンド合意後の各国の状況はどうでしょうか。きちんと守られているのか、約束事をしっかりと実行しているのかということは甚だ疑問であります。

私は、八月から九月にかけて、ブラジル、アルゼンチン、キューバなど南米諸国を回ってまいりましたし、オランダ、デンマーク、フランス等にも行って各国の農業政策をつぶさに勉強し、当国の、それぞれの国の幹部とも意見交換をいたしました。恩恵を受けているのは一部の国にすぎず、開発途上国においては食料の不足がますます拡大してきております。また、輸出国においても、農業経営は価格の低下等によって困難に直面しておりまして、あの自由化、関税化を進めたアメリカにおいても、農家に対して追加的な補助金を数百億ドルも交付している状況にあります。そのアメリカが、ま

た一方では、一部農産物において輸入増加に対してセーフガードを発動するなど対抗措置をとっております。

私は、農業交渉に臨むに当たって、このようなウルグアイ・ラウンド合意の実施の状況をまず検証して、利益を受けていると言われる輸出国においてすらさまざまな困難を抱えていることを明らかにすべきでありますし、我が国の実情もきちっと説明するべきであると考えております。

政府では、このウルグアイ・ラウンドの各国の実施状況についてのどのように検証し、どのように実態を把握しているのか、そこをしっかりと答えたい。経済局長、お願いいたします。

石原政府参考人 お答え申し上げます。

今回の農業交渉に臨むに当たりまして、ウルグアイ・ラウンド合意の各国における実施状況等の検証を行いまして、各国の抱えます食料政策、それから農業政策上の困難を踏まえまして、その解決に資するような交渉を行うことが重要であると考えております。

ただいま先生のほうから御指摘がございましたように、アメリカ等の農産物輸出国におきましても、農業経営の直面する困難に対しまして追加的な国内助成を講じたり、特定の農産物の輸入増加に対しましてセーフガード措置等の輸入歯どめ措置が講じられたりしているところでございます。

以上のような動向につきましては、今後とも、交渉を進める上で、我が国の立場を理解させる上でも、また相手の弱点をつくという意味でもこれを十分に活用する必要があると考えておりまして、農林

水産省におきましては、外務省の協力を得ながら、本年十月から十一月にかけて、各国のウルグアイ・ラウンド合意の実施状況につきまして悉皆的な調査を行ったところでございます。

今後とも、交渉を進める過程で、各国の政策動向やWTO規律の適用状況につきまして継続的に注視し、これを交渉に生かしてまいりたいと考えているところでございます。

松下委員 私の質問の趣旨は、日本はこの七年間ウルグアイ・ラウンド合意を生まじめに実行してきたと考えております。アメリカを初めケアンズ・グループ等のそれぞれの国が、本当に決められたことを実行して胸を張って言えるものかどうか、むしろ、そうでない部分がたくさんあるのではないかということをしつかり検証して戦略を練り、そして、日本の国益に沿うような解決を図ってもらいたいという趣旨でありますから、しつかりとお願いをいたします。議員外交でもしつかりと働いてまいりたいと考えております。

最後に、大臣にお伺いします。

私は、四〇%までに低下した食料自給率、そして農村地域における過疎の進行と高齢化、そういう状況を見ると、現在、日本の農業はまさに徳儀に足がかかった状態であるというふうに考えております。二十一世紀を生きる次の世代に活力ある日本農業を引き継いでいくことは、現在を生きている私たちの重大な責務であります。これまで農政に心血を注いでこられた大臣のお考えそのものではないのでしょうか。私は、その意味で、今回の農業交渉は単にこれまでの貿易交渉の延長ではなく、二十一世紀の食料、農業、農村のあり

方、飢餓や貧困からの脱却、壊れた自然の復元、ひいては人類の生存にもかかわる極めて重要な交渉ととらえるべきであると考えているのであります。

大臣、昨年十二月、私は大臣と一緒に、当時、大臣は自由民主党の総合農政調査会長でありましたけれども、シアトルの交渉に行つて、あの一週間大変な苦勞をしながら、結果として決裂ということになりましたけれども、シアトルまで一緒に行つて苦勞してまいりました。その谷大臣に、農業交渉に臨む力強い決意をお聞かせいただきたい。お願いします。

谷国務大臣 ただいま松下議員のほうから事細かにお話が出ましたが、確かに、七年前にウルグアイ・ラウンドの交渉におきまして日本が約束したとおり忠実に実行してまいりました。

しかしながら、今日日本の現状を踏まえてみますと、農業は厳しい段階を迎えております。これほど厳しい状態を迎えておる日本の農業にとりましては、今度の二十一世紀に向かって、WTOがそれぞれの各国に対しまして、二十一世紀に対応しての新しい考え方、対応の仕方を言えというお話でございまして、きょう石破政務次官のほうから詳細にわたつてお話ししましたように、政府としての考え方の取りまとめをいたしました。これからの問題につきましては、私は厳しい立場で対応しなきゃならぬと思います。

昨年の十一月の終わりから十二月の初めにかけて、おっしゃるとおり、アメリカ・シアトルにおきましてWTOの総会が開かれましたけれども、私もその現場に行つてよく観察いたしました、

実際のところ、本当にWTOに加盟してある百数十カ国の国々が日本の立場を理解しておるだろうかということにつきましては、非常に強い疑問を持ちました。そういう関係から、今度の取りまとめに当たりまして、日本の誠意のある立場を、そして日本に対する理解ある立場を各国がとっていただけるためには、相当、日本としての気持ちを率直に申し上げると同時に、またかたい決心が必要だとは思いました。